



竈門神社旧社殿

第8章 調査・研究

第1節 調査・研究の方向性	138
第2節 調査・研究の方法	138

第8章 調査・研究

第1節 調査・研究の方向性

史跡宝満山は、古代から近世に至るまで山岳信仰が継続した歴史の重層性を持つ。史跡の立地としては山地で面積が広く、山頂から麓まで傾斜面が展開し、谷や尾根という空間が入り組むことで奥行きを持つ等の特徴がある。そのため、その価値の全容解明については今後も総合的に調査・研究を推進し、多様な角度で取り組むことで山岳信仰に関する空間の歴史的風致の解明を目指し、長期的には周辺の山岳信仰遺跡を含めた視野での調査・研究を深めていくことを目標とする。併せて調査・研究の成果を適切に管理・公開し、保存・管理、活用、整備の基礎として生かす。

これらの調査・研究は、指定地・保護を要する範囲はもちろんのこと、山岳信仰に関連する文化財が存在する周辺地域でも推進する。その成果に基づき保護を要する範囲を見直すことで史跡の価値を適切に保護する。

第2節 調査・研究の方法

1. 調査・研究のための体制整備

調査・研究の総合的な推進のためには、行政や研究機関等の関係者が連携し、今後の史跡宝満山の保存活用の方向性を踏まえて計画的に推進していく。そのために、管理団体である筑紫野市・太宰府市の文化財担当部局をはじめとした行政と関係機関、研究者が連携し、調査・研究を継続して推進できるような体制の確立を目指す。

2. 総合的な調査・研究の推進

調査・研究には「史跡の学術的な価値を高め、新たな価値を見出す」、「史跡の保存・整備に必要な基礎情報を取得する」という大きく2つの目的がある。近年の豪雨災害の頻発により史跡内の遺構そのものが毀損している現状を鑑み、まずは後者の「史跡の保存・整備に必要な基礎情報を取得する」ために必要な調査を短期集中的に行う。前者の「価値を高め、新たな価値を見出す」ための調査・研究については長期継続的に取り組む。

本章では「史跡の学術的な価値を高め、新たな価値を見出す」ための調査・研究についてまとめ、「史跡の保存・整備に必要な情報を取得する」ための調査・研究については、第10章の整備のなかで整理する。

(1) 調査・研究の内容

1) 考古学的な調査・研究

- ・ 山岳信仰に係る場所の踏査、遺物の表面採取を行う。必要があれば確認調査を行う。
- ・ 修験道に係る遺構や祭祀場について、必要があれば確認調査を行う。
- ・ 過去の史跡宝満山で表面採取された遺物に関しては整理を行い、成果については報告書などで公開する。

2) 図化作業

- ・考古学的な調査の中でも史跡宝満山は立体構造物が多いため、特に図化作業について早期に着手し、劣化・崩壊箇所については優先的に図化作業を行う。
- ・平面・立面・三次元データの取得が必要である。特に石垣遺構に関しては、崩壊の前兆を見逃さないように現状のカルテ化を行うために石垣の早急な図化を計画的に実施する。

3) 歴史的な調査・研究

- ・指定の際に史跡宝満山に関する史資料調査を行ったが、引き続き地域に伝わる関連古文書類について歴史的な調査を行い、史跡宝満山の山中でどのように山岳信仰が行なわれたのか、これまでの調査・研究の成果を踏まえて更に解明を進める。
- ・修験道における信仰対象物や行場としての山内の空間利用の在り方など、史跡宝満山における山岳宗教の空間の歴史的風致の解明を進める。
- ・山外に出た修験道関係の史資料についても聞き取りをはじめとする調査・研究を行う。
- ・地域の博物館や公文書館などと連携し、史資料を掘り起こして保護を進める。
- ・資料化し公開が可能なものに関しては積極的な公開を所有者に働きかけ、所有者の許可を得たのち報告書などで広く公開を図る。また、所有者から史資料の寄託・寄贈があった場合は受け入れ体制を協議し、適切に保管できる場所を定める。

4) 土木・建築学的な調査・研究

- ・山内での坊の立地や配置、建物や付帯施設の構造等の土木・建築的な調査・研究を進める。

5) 民俗調査・研究

- ・主に山岳信仰に関わる民俗学的な調査を行う。地域の博物館等と連携し、修験道に係わる民俗事例や用具などの資料の調査、収集、公開などを行う。

6) 自然環境調査・研究

- ・山岳および里山としての価値に関連する山内の環境の変化(野生動植物の動向)について専門家の指導や評価を受けながら適宜調査する。
- ・山内の樹木の種類や分布等を調査し、専門家の指導を受けながら史跡の価値を保つための樹木管理計画の策定を行う。

(2) 各地区で推進する内容

調査・研究の項目は各地区で共通しているが、特に推進すべき内容をまとめる。

- a. 上宮地区 ……遺構の図化は終了しているため、他の地区の優先すべき調査・研究の成果をまとめて、総合的な調査を進める。
- b. 愛獄山頂地区… 遺構の配置図や遺構の図化を行う。
- c. 登拝道……………登山のメインルートとなっており、石段の劣化等が顕著なため遺構の図化を優先的に進める。

- d . 西院谷地区…優先順位を付けた遺構の図化作業を進める。また、坊等の構造解明のための考古学や土木建築学的な調査を行う。
- e . 東院谷地区…地区全体の配置図の作成や、優先順位をつけた遺構の図化作業を進める。また、坊等の構造解明のための考古学や土木建築学的な調査を行う。
- f . 本谷地区 …指定地外へも重要遺構が広がる可能性が高いため、必要に応じて考古学的な確認調査を実施し、指定地拡張に向けた基礎資料の充実を図る。
- g . その他の山中地区…修験道における信仰対象物や行場としての山内の空間利用の在り方など、史跡宝満山における山岳信仰の空間の歴史的風致の解明を進める。
- h . 下宮地区 …遺構の図化は終了しているため、他の地区の優先すべき調査・研究の成果をまとめて、総合的な調査を進める。
- i . 大門地区 …指定地外へも重要遺構が広がる可能性が高いため、必要に応じて考古学的な確認調査を実施し、指定地拡張の基礎資料の充実を図る。

3. 調査・研究成果の管理と公開

史跡宝満山については、過去多くの研究者が行政や関係機関それぞれの立場で研究を進めてきた。史跡宝満山保存活用計画策定後は、それぞれの調査成果を集約し活かすために、研究発表の場を設け、また、学際的な研究が広く進む体制を構築していくことが求められている。そのためには、まずこれまでに蓄積された調査・研究の成果を、史跡宝満山研究の基礎資料としてデータベース化し、管理・公開されていくべきと考えている。そのための体制については十分に協議した上で構築していく。

また、調査成果の公開については、第9章の活用とも関連して、史跡宝満山の価値を高める活動として、継続的に広く一般に公開することを目標に、手段や体制を検討する。インターネット等の手法も公開手段として検討し、広く一般に公開するための取り組みを行う。合わせて、今後行う各種調査や整備の成果についても、段階に応じて報告書等を作成して公開する。

史跡宝満山に関係する埋蔵文化財報告書、総合報告書など公的な機関が刊行したものについては電子データ化し、データベースとして無料で公開していく体制を構築する。その際は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が行っている取り組み（全国遺跡報告総覧）に参加することも検討する。

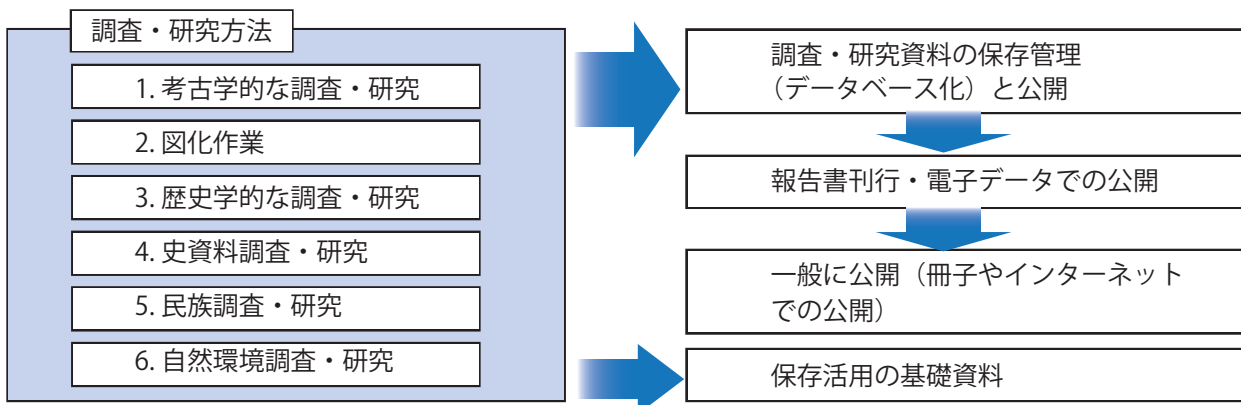


図 8-1 調査・研究と成果の公開